

# あ ら わ い わ て の 理 事 長



公益財団法人岩手県体育協会

理事長 平藤 淳

平成最後の今年も、ウインタースポーツで岩手県関係選手が国際レベルの活躍をするなど明るい話題とともに幕を開けました。これも、選手のご努力、指導者のご尽力、そしてご支援いただいている皆さまのお力添えのおかげと、心より感謝しております。

改元を前に、一度、「平成の岩手スポーツ」を振り返ってみます。

岩手県で行われた大きなスポーツイベントは、平成3年の全国健康福祉祭に始まり、5年のアルペンスキー世界選手権大会、11年の全国高校総合体育大会、17年は全国スポーツ・レクリエーション祭、そして28年には国民体育大会と全国障害者スポーツ大会が行われています。また、単独の国際試合なども行われ、世界・全国の皆さんが力を発揮する場と機会を提供し、さらに、地元の皆さんにもレベルの高いスポーツ観戦を楽しんでいただきました。

競技レベルも向上し、平成4年アルペールビル冬季五輪で三ヶ田礼一さんが県人初の五輪金メダルを獲得しましたし、パラリンピックでも大井利江さんが4大会連続出場し銀・銅の二つのメダルを手に入れています。また、19年にはスポーツタレントの発掘・育成事業「いわてスーパーキッズ」が始まり、その修了生の小林陵侷さんが今シーズンのスキージャンプワールドカップで日本人初の総合優勝を果たして

います。さらに、プロボクシングの世界チャンピオンやアメリカ大リーグ野球で活躍する選手も複数輩出されるなど、世界を目指す選手を育てる環境も整いつつあります。トップアスリートの活躍は、多くの方々に喜びや感動を与え、子どもたちがスポーツに取り組む大きなきっかけにもなっています。

このように、岩手のスポーツは素晴らしい「平成」を経過しており、とても喜ばしいのですが、調べてみると、意外な面もあったのです。

国の社会生活基本調査中のスポーツ行動者率を、平成13年（県別データ掲載最古）と28年（最新）を比べてみると、岩手県の割合は、64.2%から60.6%に低下していました。そして、国民体育大会の男女総合順位は、元年が25位、昨年30年が24位とほとんど変わりありませんでした。

素晴らしい成果をあげてきた「平成の岩手スポーツ」ですが、まだまだ伸ばすべき分野があります。

全国的にスポーツや部活動の在り方の見直しが求められ、岩手県でも新しいスポーツ振興計画を作っています。次の時代は、平成のレガシーを生かし、岩手のスポーツ関係者の力を集結して変化し続けることが必要です。一丸となって取り組みましょう。